

第3回

日本リンパ浮腫治療学会が

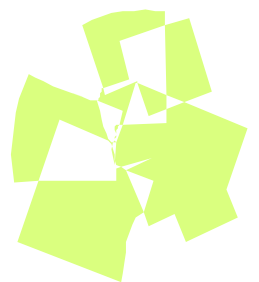
9月8日(土)～9日(日)に

横浜市開港記念会館にて

開催されます。

当院からは、

血管外科センター長 今井 崇裕 先生が
学術発表をされますのでご紹介します。



第3回

日本リンパ浮腫治療学会 学術総会

会期：2018年9月8日(土)・9日(日)

会場：横浜市開港記念会館

会長 前川 二郎 (横浜市立大学医学部形成外科学主任教授)

事務局長 矢吹 雄一郎 (横浜市立大学附属病院形成外科)

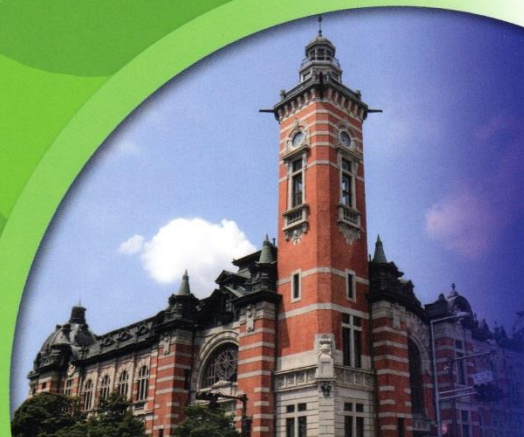
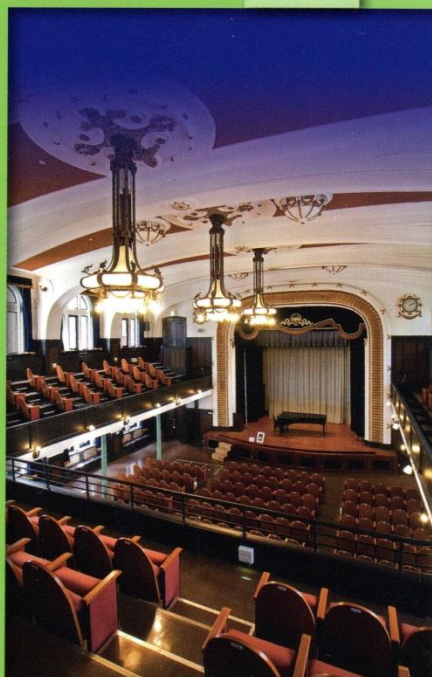
The 3rd
Annual Meeting
of Japanese Society for
Lymphedema Therapy

JSLT 2018

YOKOHAMA



リンパ浮腫治療の 標準化を目指して



【大会事務局】

〒236-0004 神奈川県横浜市金沢区福浦 3-9
TEL: 045-787-2709 FAX: 045-783-5351
e-mail: prs_ycu@yokohama-cu.ac.jp

【運営事務局】

株式会社日本旅行 ECP 営業部
〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-18-19 虎ノ門マリビル 11 階
TEL: 03-5402-6401 FAX: 03-3437-3944 e-mail: amjslt_2018@nta.co.jp

「履けないでは終わらせない！」

チャート式でアプローチする圧迫療法」

今井崇裕 Takahiro Imai

西の京病院血管外科 Department of Vascular Surgery, Nishinokyo Hospital

抄録

圧迫療法を患者へ指示しても適切に行われていないケースが多い。最も多い理由は「硬くて履けない！」であり、患者は高齢の女性が多い。原因は「腰が悪くて屈めない、指の力が弱い」という意見が多い。「指示して処方するまでが医療従事者の責任であり、履かないのは患者の責任である」では、質の高い診療に結びつかない。当院でも患者へ指導を行うが、担当者の経験や知識、診察時間の余裕に左右され、履けない患者に対する統一したアプローチの必要性を感じていた。患者から聞き取り調査を行った履けない原因と、担当者が行った対応をもとにフローチャートを作成した。

最初に判断するのは、1.自分で履くのか、2.他人が履かせるのかの二択である。これは年齢や同居者の有無など患者背景を考慮する。次に判断するのは、A.弾性ストッキングを履くか、B.弾性包帯を巻くかである。これは下肢のむくみの程度など病状を考慮する。

さらに1.自分、2.他人、A.ストッキング、B.包帯の4枚のカードを、それぞれ、自力で出来る、指導して行う、補助具を使用、2枚履きなどの詳細項目と組み合わせ、どの方法が患者に適しているか決定する。初期対応後は、むくみの程度や患者背景の変化に応じて対策を変えていく必要がある。

今回、圧迫療法を上手くできない患者に対して、個別性に合わせてシンプルにアプローチすることが出来るフローチャートを考案したので紹介する。